

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏	がな 名	あまの 天野	ただゆき 忠幸
(研究テーマ名) 戦国織豊期の武家の権力構造と支配拠点の研究			
(研究活動実績)			
[著書など]			
1、『本興寺文書』第1巻（仁木宏氏と共同監修、清文堂出版、2013年4月）			
2、『三好長慶』（今谷明氏と共同監修、宮帯出版社、2013年7月）			
3、『戦国遺文 三好氏編』第1巻（東京堂出版、2013年11月）			
[論文など]			
1、「織田・羽柴氏の四国進出と三好氏」（四国中世史研究会・戦国史研究会編『四国と戦国世界』岩田書院、2013年5月）			
2、「三好政権と足利幕府の対立をどう評価するか」（今谷明・天野忠幸監修『三好長慶』（宮帯出版社、2013年7月）			
3、「三好長逸の息子「弓介」について」（『戦国史研究』66、2013年8月）			
4、「中世・近世の兵庫 一港と城の歴史」（『ヒストリア』240、2013年10月）			
5、「長尚流三好氏の動向」（『戦国遺文三好氏編月報』1、2013年11月）			
6、「三好氏と長洲荘」（『地域史研究』113、2013年11月）			
7、「三好長慶・松永久秀と高山氏」（中西裕樹監修『高山右近』宮帯出版社、2014年3月）			
[研究発表など]			
1、「中世・近世の兵庫 一港と城の歴史」（大阪歴史学会現地見学会、4月13日）			
2、「戦国期阿波の政治史から考える勝瑞」（守護町勝瑞検証会議、9月10日）			
研究テーマに基づき、戦国期の瀬戸内地域に展開した大名の三好氏と織田氏の権力構造の解明につとめた（著書など2・3、論文など2・7）。また、両権力がせめぎあった具体的な地域として尾崎・長洲地域（著書など1、論文など5・6）、兵庫津周辺（論文など4、研究発表など1）、吉野川下流域・鳴門海峡（研究発表など2）を取り上げ、城郭の変遷や荘園諸職のあり方を検討した。			